授業科目名： 比較文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2	担当教員名： 伊藤　玄二郎 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会）（高校　公民）
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」

「学位授与の方針」との関係

・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。

・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。

授業の到達目標及びテーマ

（１）文化における比較論とは
（２）初めてのヨーロッパ、ポルトガルとの出会い
（３）天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ
（４）潜伏キリシタンを考える
（５）岩倉具視の見た世界の中の日本
（６）ペリー提督の見た日本
（７）日本とフィンランドの福祉に見る国家像

授業の概要

人・モノ・社会を物差しに文化を考える。わけても、日本から見た外国、外国から見た日本を時系列に望見してみる。文明は時に連れて発展をとげている。しかし、文化は進化しているか。人間は進化しているか。政治、社会、風俗に焦点をあて、複眼で二つの事象を見てみたい。

授業計画

第１回：文化における比較とは
第２回：新しい文明、文化との出会い　ポルトガルと大航海時代
第３回：初めての西洋との出会い　　鉄砲伝来・キリスト教伝来
第４回：天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ
第５回：潜伏キリシタンを考える
第６回：南蛮屏風から見えた歴史
第７回：シーボルトと日本
第８回：ペリー提督の見た日本
第９回：日本の開国をめぐるエピソード
第１０回：岩倉具視が読んだ世界の地図
第１１回：富国強兵の道
第１２回：森鴎外のみたドイツそして日本

第１３回：夏目漱石のイギリスと小泉八雲
第１４回：ＧＨＱの見た日本
第１５回：日本とフィンランドの国家像
定期試験

スクーリングでの学修内容
　スクーリングの期日前後の社会情況の中から、シラバスに関する事項を取り上げ、学生の皆さんと比較議論する。
（主に、第 3 回、4 回、5 回、6 回の内容を含む。）

教科書
（１）高野悦子・伊藤玄二郎編（1993）『図説ポルトガル』河出書房新社
（２）中村　光夫著（1954）『日本の近代小説 （改版）』岩波新書
その他、時代とジャンルが多岐にわたるのでシラバスに沿って適宜、参考資料を紹介する。

参考文献
若桑みどり『クアトロ・ラガッティ』（2004）集英社

学生に対する評価
レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。